

ちょっと気になるデータ

平成27年平均の有効求人倍率

1月29日に厚生労働省から公表された「一般職業紹介状況」によると、平成27年平均の有効求人倍率は前年を0.11ポイント上回る1.20倍となった。平成21年に0.47倍と統計の取れる昭和38年以降の最低を記録したあと、6年連続の上昇で、平成3年(1.40倍)以来の高い水準である。

平成27年平均の有効求人数は前年に比べて4.3%増で6年連続の増加、有効求職者数は5.4%減で6年連続の減少となっている。

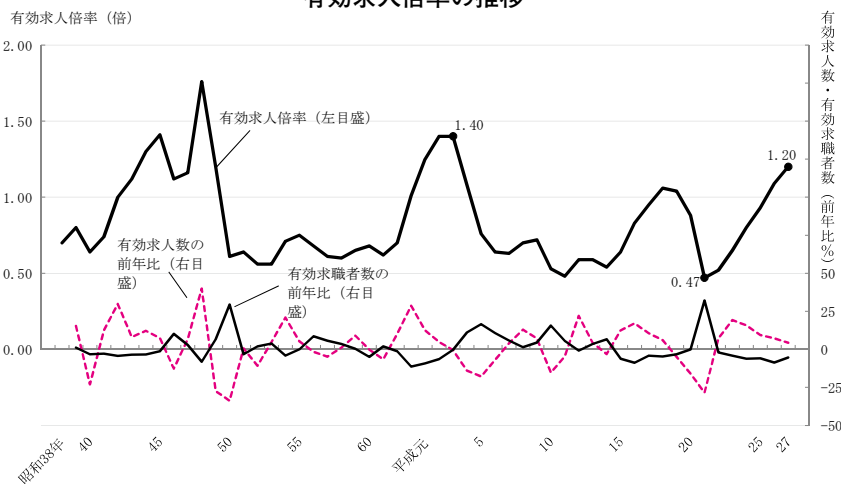
雇用形態別の有効求人倍率をみると、正社員は0.75倍、パートタイムは1.52倍で、それぞれ前年を0.09ポイント、0.14ポイント上回っている。

地域別の有効求人倍率をみると、東海が1.41倍で最も高く、次いで北陸と中国が1.37倍、南関東が1.27倍、東北が1.21倍などとなっている。すべての地域において前年の有効求人倍率を上回っている。平成21年にはすべての地域で前年を下回り、その後22年に南関東を除く地域で前年を上回り、23年以降は5年連続してすべての地域で前年を上回っている。

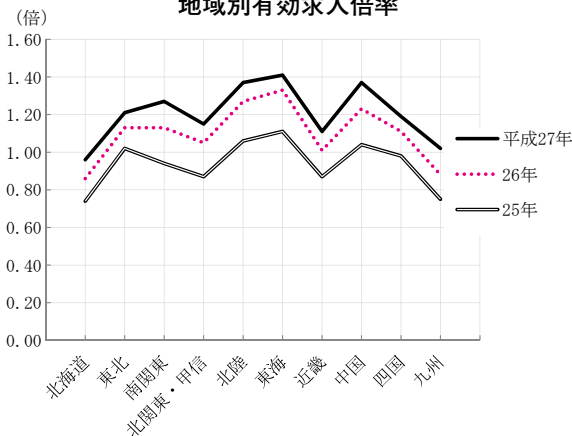
また、職業別の有効求人倍率をみると、保安の職業で5.01倍と最も高く、次いで建設・採掘の職業で2.91倍、サービスの職業で2.45倍、専門的・技術的職業で1.77倍などとなっている。その一方で事務的職業や運搬・清掃・包装等の職業では1倍を切っており職業による差は大きい。また、より細かい分類で高いところをみると、建設躯体工事の職業で7.00倍、建設の職業で2.88倍、介護サービスの職業で2.59倍、医師、歯科医師、獣医師、薬剤師で6.15倍、建築・土木・測量技術者で3.75倍などとなっている。

(調査・解析部)

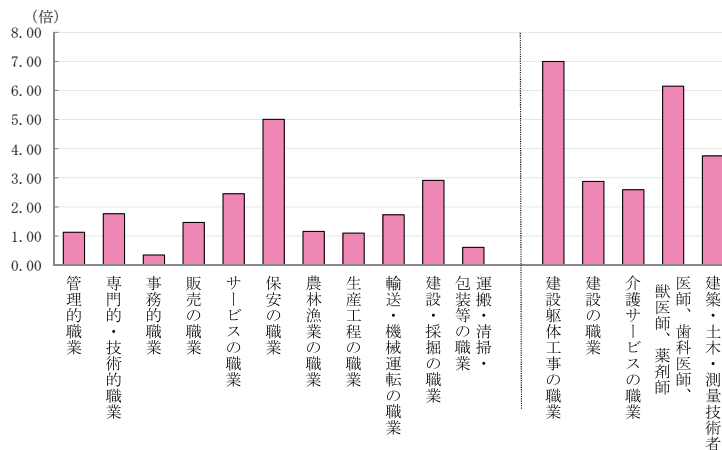
有効求人倍率の推移



地域別有効求人倍率



職業別有効求人倍率



注 パートタイムを含む常用労働者